

新島八重の生涯

NHKの大河ドラマで放送中の「八重の桜」の主人公、新島八重は新島襄と結婚し、結婚生活僅か十四年で襄は、他界します。ドラマの先になりますが、その後の八重の生涯を追ってみます。

① 八重の従軍看護婦への転身。

彼女は、襄が亡くなった後、すぐに日本赤十字社の社員となり、一八九五年に日清戦争が起ると二十人の看護婦を引いて広島に出掛けます。傷ついた将兵の看護に当たります。これは、かつて戊辰戦争で武士たちを看護し役立った体験がそのような行動を取らせたのでしょう。続いて起こった一九〇四年の日露戦争の際も大阪の陸軍病院で看護婦として働きました。八重が五十八歳の時でした。人を助ける思いは、聖書の教えである「あなたの隣人を愛せよ」から導かれたのでしょうか。

② その後、裏千家の茶道師範となります。

八重は京都で出会った裏千家の茶道を習い、師範の資格をとり、茶道教室を開きます。なぜ、八重は茶に興味を持ったのでしょうか。それには、長い歴史が隠されています。まず、一五九〇年、千利休の高弟であった蒲生氏郷が秀吉の命を受けて会津を治めることとなります。彼はキリシタン大名でしたので、重臣たちや城下の人々の多くのキリシタンがおりました。

その後、大きな出来事があり、利休が秀吉の怒りに触れ、切腹を命じられます。

氏郷は、千利休の子、小庵を会津にかくまいました。その時、小庵が建てたと言われる茶室「麟閣」が今も残されています。

八重の先祖、山本道珍は、城の茶道頭であった事は、見えない糸で結ばれているように思われます。



③ 八重の晩年と愛唱讃美歌

新島襄の念願であった同志社大学として認められます。八重は六十四歳でした。その後、多くの人々に愛されながら、一九三二年急性胆のう炎のため、自宅で亡くなります。つい前日まで茶会に出席していたほど元気だったと言われています。当年八十六歳の生涯でした。

八重の葬儀は、同志社のチャペルで行われ二十一人もの参列がありました。追悼説教は救世軍の山室軍平が行い、八重の愛唱した讃美歌が歌われました。その一つは「信仰の旅路」を歌詞にしたものです。

御恵み豊けき主の手に引かれてこの世の旅路を歩むを樂しきと歌われています。

八重の生涯は、本当に波瀾に満ちたものでした。何度も死を覚悟しつつ、大胆に生き、最後はキリストのもとで、感謝、感謝と言びつつ、神の御許に招かれたのでした。

今年のイベントを紹介いたします。

◎九月のイベント

十五日(日) 十時半～十二時

礼拝にて高齢者の祝福式をして祝います。和洋楽器で伴奏し、ゴブシを入れて讃美歌を歌います。



◎十月のイベント

二十日(日) 十三時より教会のバザー衣類、食器、電気製品、本など、それに加えて手作りのおはぎ、ケーキなど沢山! また、喫茶コーナーもあります。お気軽にお出で下さい。

◎十一月のイベント

クリスマスを迎えます。十二日(木) 婦人会のクリスマス会 二十二日(日) クリスマスの礼拝と祝会の催しがあります。

